

図書館員のひみつの本棚 第184回

今月は絵がとても美しい絵本をご紹介します。

『ことりをすきになった山』

エリック=カール／絵 アリス=マクレラン／文 ゆあさ ふみえ／訳 偕成社 1987年  
¥1400(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★★★ 小高学年★★★ 中学生★☆☆

高校★☆☆ 一般★☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

荒れはてた野原にそびえる岩だらけの山に、1羽の小鳥が羽を休めに立ち寄りました。山は「ここにいてほしい」と小鳥に頼みますが、水も食べ物もないこの山に住むことはできないと小鳥は断ります。しかし山に懇願され、小鳥は「毎年春に来て山に歌ってあげること」「子孫に引き継いで必ず訪れること」を約束します。そうして長い長い年月が経つうち、次第に山は変わっていくのです。

山の変化が素晴らしい絵で表現されていて、物語にぴったり合っています。絵を描いているのは、絵本『はらぺこあおむし』の作者で2021年に亡くなったエリック=カールさん。心を打つ美しいこの絵本は、大人も楽しめます。

<子どもに手渡す時のポイント>

『はらぺこあおむし』の人が絵を描いているよ」と教えてあげると、子どもの興味を引くと思います。ただ、少し長いので、読み聞かせてあげるにしても小学校中学年くらいからがよいと思います。表紙の裏から最後の最後までしっかりと物語の一部になっているので、文章がない部分もじっくりと見せてあげてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。  
ぜひ手にとってみてください。